安全データシート　［ ＳＤＳ ］

１．化学品及び会社情報

化学品の名称：品名　合成界面活性剤泡消火薬剤 3%型　型式番号　泡第 19～20 号
スノーラップ SD

会社情報

会社名	：日新理化産業株式会社
住所	：埼玉県本庄市児玉町共栄 710 番地 4
連絡先	：TEL：0495-72-5551　FAX：0495-72-4994
緊急連絡先	：TEL：0495-72-5551

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	：消火活動

２．危険有害性の要約

重要または特有な危険有害性　該当なし
本製品に PFOS は含有しておりません。
本製品に PFOA は含有しておりません。

ＧＨＳ分類

物理的危険性

爆発物	：区分に該当しない
可燃性ガス	：区分に該当しない
エアゾール	：区分に該当しない
酸化性ガス	：区分に該当しない
高圧ガス	：区分に該当しない
引火性液体	：区分に該当しない
可燃性固体	：区分に該当しない
自己反応性化学品	：区分に該当しない
自然発火性液体	：区分に該当しない
自然発火性固体	：区分に該当しない
自己発熱性化学品	：分類できない
水反応可燃性化学品	：区分に該当しない
酸化性液体	：区分に該当しない
酸化性固体	：区分に該当しない
有機過酸化物	：区分に該当しない
金属腐食性化学品	：分類できない
鈍性化爆発物	：分類できない

健康有害性

急性毒性（経口）	：分類できない
急性毒性（径皮）	：分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	：区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）	：分類できない
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	：分類できない
皮膚腐食性／刺激性	：分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	：区分２
呼吸器感作性	：分類できない
皮膚感作性	：分類できない
生殖細胞変異原性	：分類できない
発がん性	：分類できない
生殖毒性	：分類できない

特定標的臓器毒性（短回ばく露）　：区分３（麻酔作用）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：区分１（肝臓、呼吸器系）
誤えん有害性　：分類できない
環境有害性
水生環境有害性　短期（急性）　：区分３
水生環境有害性　長期（慢性）　：区分３
オゾン層への有害性　：分類できない

絵表示（GHS　JP）

GHS07

GHS08

注意喚起語(GHS JP)　：危険
危険有害性情報(GHS JP)　：強い眼刺激(H319)
眠気又はめまいのおそれ(H336)
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(呼吸器系、肝臓)(H372)
水生生物に有害(H402)
長期継続的影響によって水生生物に有害(H412)
注意書き(GHS JP)
安全対策　；粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)
；取扱い後はよく洗うこと。(P264)
；この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
；屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
；環境への放出を避けること。(P273)
；保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)
応急処置　；飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。(301+P312)
；皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。(P302+P352)
；吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
；眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。(P337+P313)
保管　；換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)
；施錠して保管すること。(P405)
廃棄　；内容物／容器を国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

３．組成、成分情報

化学物質・混合物の区別　；混合物

名前	濃度(%)	官報公示整理番号		CAS 番号
		化審法番号	安衛法番号	
エーテル系アニオン界面活性剤	非公開	非公開	非公開	非公開
ジエチレングリコールモノブチルエーテル	30 － 40	(2)-422	既存扱い	112-34-5
高級アルコール	非公開	非公開	非公開	非公開
その他添加物	非公開	非公開	非公開	非公開
水	35 － 40	—	—	7732-18-5

危険物有害成分　；ジエチレングリコールモノブチルエーテル

4．応急措置

応急処置

応急処置　一般　；気分が悪ときは医師に連絡すること。

吸入した場合　；空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
必要に応じて医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合　；多量の水および石鹸で洗うこと。
必要に応じて医師の診察を受ける。

眼に入った場合　；水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は医師の診断／手当てを受けること。
必要に応じて医師に連絡すること。

飲み込んだ場合　；気分が悪い時は医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状／損傷　；眠気又はめまいのおそれ。

症状／損傷　眼に入った場合　；目刺激。

5．火災時の措置

適切な消火剤　；乾燥粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、乾燥砂、水噴霧

使ってはならない消火剤　；情報なし

火災の危険性　；燃焼時：一酸化炭素、二酸化炭素を放出する。

火災時の危険有害性分解生成物　；不完全燃焼によって、危険な一酸化炭素、二酸化炭素、その他の有毒ガスを放出する。

消火方法　；安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。

消火時の保護具　；適切な保護具を着用して作業する。
時給式呼吸器。
完全防護服。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

一般的措置　；粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
皮膚、眼との接触を避ける。
適切な保護衣、手袋、眼または顔面用保護具を着用する。
作業所の十分な換気を確保する。
区域より退避させること。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項　；環境への放出を避けること。
排水溝や河川へ廃棄してはならない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法　；漏出物を回収すること。
流出した物質は吸着剤で回収し、下水溝や水路への侵入を防止する。
大量に流出した場合は、砂や土で回収する。

浄化方法　；吸収剤の中で拡散した液体を回収する。

二次災害の防止策　；漏えいした場合、着火源を除去すること。
漏出物質により滑る危険がある。
火花を発生させない工具を使用すること。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項　；粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
皮膚、眼との接触を避ける。
火気厳禁。
皮膚および眼との接触を避けること。

衛生対策　；この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
製品取扱い後には必ず手を洗う。

保管

適切な保管条件　；施錠して保管すること。
換気のよい場所で保管すること。
容器を密閉しておくこと。
涼しいところに置くこと。
火気厳禁。
凍結を避けること。

技術的対策　；換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

８．ばく露防止及び保護措置

ばく露限界値

成分	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
ジエチレングリコールモノブチルエーテル	―	―	TWA 10 ppm(IFV),STEL－

設備対策　；作業所の十分な換気を確保する。

保護具

呼吸用の保護具　；換気が不十分である場合、適切な呼吸器を着用する。
手の保護具　；適切な耐薬品性手袋を着用する。
眼の保護具　；化学用ゴーグルまたは安全眼鏡。
皮膚及び身体の保護具　；靴を含め帯電防止服の着用を推奨する。
環境へのばく露の制限と監視　；環境への放出を避けること。

９．物理的及び化学的性質

物理状態　；液体
色　；淡黄色
臭い　；わずかな特異臭
PH　；7.47（原液）（20℃）
融点（流動点）　；≤－12.5℃
凝固点　；データなし
沸点　；102℃
引火点　；水の存在により、引火点は測定不能である。
自然発火点　；データなし
分解温度　；データなし
可燃性　；データなし
蒸気圧　；データなし
密度　；1.028ｇ/㎤（20℃）
相対ガス密度　；データなし
溶解度　；水：水に可溶
n-オクタノール/水分配係数(LogPow)；データなし
爆発限界(vol %)　；データなし
動粘性率　；データなし
動粘度　；13.8cSt　（20℃）
粒子特性　；データなし

１０．安定性及び反応性

反応性　；通常の使用、運送の状況下では、当製品は反応しません。
化学的安定性　；通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性　；通常の使用条件下では危険な反応は知られていません。
避けるべき条件　；混触危険物質との接触。凍結、高温。
混触危険物質　；酸化剤。
危険有害な分解生成物　；通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

１１．有害性情報

急性毒性(経口)　；分類できない
急性毒性(経皮)　；分類できない
急性毒性(吸入)　；区分に該当しない(分類対象外)(気体)
分類できない(蒸気)

分類できない(粉じん、ミスト)

ジエチレングリコールモノブチルエーテル(112-34-5)	
急性毒性(経口)	ラットのLD50値として、5,660 mg/kg(ACGIH(7th,2013)、DFGOT vol.7(1996))、5,080 mg/kg(雌)、6,530 mg/kg(雄)、6,560 mg/kg(PATTY(6th,2012))、9,600 mg/kg(給餌)、7,300 mg/kg(絶食)(ACGIH(7th,2013))、9623 mg/kg(給餌)、7292 mg/kg(絶食)(PATTY(6th,2012)、EU-RAR(1999)、ECETOC TR 64(1995))との報告に基づき、区分外とした。
急性毒性(経皮)	ラットのLD50値として、>2,000 mg/kg(DFGOT vol.7(1996))、ウサギのLD50値として、2,764 mg/kg(PATTY(6th,2012)、EU-RAR(1999)、ECETOC TR 64(1995))、3,000-4,000 mg/kg(DFGOT vol.7(1996))、4,000 mg/kg(PATTY(6th,2012))との報告に基づき、区分外(国連分類基準の区分5)とした。
急性毒性(吸入:粉末)	データ不足のため分類できない。ラットに飽和蒸気(28.8ppm)を7時間ばく露した結果(4時間換算値:38.1ppm)、死亡例なしとの報告(EU-RAR(1999)、ECETOC TR 64(1995))があるが、このデータのみでは分類できない。

皮膚腐食性/刺激性　;分類できない

製品	
pH	;7.47(原液)(20℃)
ジエチレングリコールモノブチルエーテル(112-34-5)	
皮膚腐食性/刺激性	本物質(未希釈)をウサギ又はモルモットに適用した結果、軽度の刺激性がみられたとの報告(PATTY(6th,2012))や、ウサギの皮膚に長期間または反復適用した結果軽度の刺激性がみられたとの記載(ECETOC TR64(2005)、BUA204(1997))がある。なお、EU-RAR(1999)は、ウサギ又はラットを用いた経皮への反復投与(2000 mg/kg)で影響がみられなかったことから皮膚刺激性の区分はつかないと判断している(EU-RAR(1999))。詳細は不明であるがヒトに対する原液のパッチテストの結果、何人かに紅斑がみられたとの報告がある(DFGOT vol.7(1996))。以上の結果から、区分外(国連分類基準の区分3)とした。

眼に対する重篤な損傷性/目刺激性:強い目刺激

製品	
pH	;7.47(原液)(20℃)
ジエチレングリコールモノブチルエーテル(112-34-5)	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	ウサギの眼に本物質0.1mLを適用した結果、中度の目刺激性が認められたが14日以内に回復した(ECETOC TR 64(1995))、ACGIH(7th,2001)、PATTY(6th,2012))との報告がある。なお、本物質はEU CLP分類において「Eye.Irrit.2 H319」に分類されている(ECHA CL Inventory(Access on June 2015))。中等度の刺激性との記載、及び回復性の記載からガイダンスに従い区分2Aとした。

呼吸器感作性　;分類できない
皮膚感作性　;分類できない

ジエチレングリコールモノブチルエーテル(112-34-5)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。なお、モルモットを用いたMaximization testにおいて感作性は見られなかった。(ECETOC TR.64(1995)、BUA 204(1997))との報告や、感作性がないとの試験報告(EU-RAR(1999))があるが、結果の詳細等不明であるため分類に用いるには不十分なデータと判断した。情報を精査し区分を変更した。

生殖細胞変異原性　;分類できない

ジエチレングリコールモノブチルエーテル(112-34-5)	
生殖細胞変異原性	ガイダンスの改訂により「区分外」が選択出来なくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivoでは、マウス骨髄細胞の小核試験で陰性(DFGOT vol.7(1996)、EU-RAR(1999)、ACGIH(7th,2013)、PATTY(6th,2012))、in vitroでは、マウスリンフォーマー試験で弱陽性の結果はあるが、それ以外の試験、すなわち、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、遺伝子突然変異試験、不定期DNA合成試験で陰性である(ACGIH(7th,2013)、DFGOT vol.7(1996)、EU-RAR(1999)、PATTY(6th,2013))。

発がん性　;分類できない
生殖毒性　;分類できない

ジエチレングリコールモノブチルエーテル(112-34-5)	
生殖毒性	ヒトの生殖影響に関する情報はない。実験動物では、本物質をラットの雌雄いずれかに交配前から強制経口投与し、非ばく露のペアーと交配させた1世代試験において、1,000 mg/kg/day までの用量で、雌雄親動物の繁殖能への有害景況はみられなかった

	が、1,000 mg/kg/day の F1 出生時に保育期後期の体重増加抑制がみられた(EU-RAR(1999))。また、ラットに交配前 13 週間、及び雌は妊娠 20 日前まで、2,000 mg/kg/day を経皮適用した 1 世代試験でも雌雄ともに繁殖能への有害影響は認められなかった(EU-RAR(1999)、ACGIH(7th,2013))。一方、発生毒性影響としては、妊娠雌ラットの器官形成期(妊娠 6-15 日)に強制経口投与した発生毒試験においては、母動物の出生数、生後 3 日までの生存率、体重推移に影響はみられなかった。(催奇形性の有無は評価対象外)との記述、並びに妊娠雌ラットの全妊娠期間を通して混餌投与した催奇形性試験では、母動物に体重増加抑制がみられる用量でも、出生前後の発生影響はみられなかったとの記述がある(EU-RAR(1999)、ACGIH(7th,2013))。また、妊娠ウサギの器官形成期(妊娠 8-19 日)に閉塞経皮適用した催奇形性試験において、母動物に統計的に有意ではないが体重増加抑制の傾向がみられ、皮膚刺激性が観察される用量まで投与したが、胎児には奇形も含めて発生毒性はみられなかったとの記述がある(EU-RAR(1999)、ACGIH(7th,2013))。以上、実験動物では経口及び経皮の 2 経路で、親動物の繁殖能への有害影響、及び奇形を含む発生毒性影響は概ね生じないと考えられるが、経口経路のラット 1 世代試験では高用量群の出生児に哺育期間中の成長抑制を示唆する結果も得られており、「区分外」とするにはヒトの知見も含めてデータが不十分と判断された。よって、本項は「分類できない」とした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)　；眠気又はめまいのおそれ

ジエチレングリコールモノブチルエーテル(112-34-5)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトに関する情報はない。実験動物では、ウサギへの区分 2 相当の 2,000 mg/kg経口投与で死亡が発生し、1,060 mg/kgで腹臥位、一過性の無緊張、脱力状態、呼吸促進、麻酔症状、腎臓傷害がみられた(DFGOT vol.7(1996))。また、「本物質は経口及び経皮経路で急性毒性は弱い。」との情報、「マウス、ラットの経口投与で、死亡前の毒性徴候は活動低下、努力呼吸、食欲低下、衰弱、振戦」であるが、その用量は区分 2 を超えること、「ウサギの経皮ばく露で、食欲低下、腎臓肥大、腎盂の褪色、胸腺における浮腫や出血性傷害」がみられたが、その用量は区分 2 を超える(以上、EU-RAR(1999))。以上より、ウサギの経皮ばく露で腎臓への影響が考えられるが、区分 2 を超える用量範囲のため、区分 3(麻酔作用)とした。情報を確認し、旧分類の区分を見直した。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)　；長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(肝臓、呼吸器系)

ジエチレングリコールモノブチルエーテル(112-34-5)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトに関する情報はない。実験動物では、ラットを用いた 5 週間吸入毒性試験において、117 mg/m3(ガイダンス値換算：0.0325 mg/L)で肝臓の相対重量増加、肝細胞脂肪変性がみられている(EU-RAR(2000))。また、ラットを用いた 2 週間吸入毒性試験において、100 mg/m3(ガイダンス値換算：0.011 mg/L)で血管周囲及び気管支周囲の顆粒球白血球の細胞浸潤、細気管支化、肺重量増加がみられている(EU-RAR(2000))。これらはいずれも区分 1 の範囲でみられた。なお、血液系(赤血球)への影響として溶血がみられたが区分 2 の範囲を超える用量であった。ラットを用いた 6 週間強制経口投与毒性試験において、溶血性貧血、肝臓重量増加、前胃の角化亢進・棘細胞増生がみられ(EU-RAR(2000)、PATTY(6th,2012)、DFGOT vol.7(1996))、13 週間飲水投与毒性試験において溶血性貧血、肝臓重量増加がみられた(PATTY(6th,2012))。これらは区分 2 の範囲を超える用量であった。ラットを用いた 13 週間経皮投与毒性試験において、全身影響はみられていない(EU-RAR(2000)、PATTY(6th,2012))。したがって、区分 1(呼吸器、肝臓)とした。旧分類では吸入経路での毒性影響が明確でないことから分類できないとなっていた。しかし、得られた吸入経路の情報から分類が可能であった。

誤えん有害性　：分類できない

１２．環境影響情報

生態毒性

生態－全般　：水生生物に有害、長期継続的影響によって水生生物に有害。

水生環境有害性 短期(急性)　：水生生物に有害

水生環境有害性 長期(慢性)　：長期継続的影響によって水生生物に有害

ジエチレングリコールモノブチルエーテル(112-34-5)	
水生環境有害性 短期(急性)	藻類(セネデスムス)96 時間 EC50＞100 mg/L、甲殻類(オオミジンコ)48 時間 EC50＞100 mg/L、魚類(ブルーギル)96 時間 LC50＝1300 mg/L(いずれも EU-RAR、1999)であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期(慢性)	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。難水溶性ではなく(水溶解度＝1000000 mg/L、PHYSPROP Database2009)、急性毒性が区分外であることから、区分外と

	した。
ＬＣ５０－魚［1］	1300 mg/Ｌ
ｎ-オクタノール/水分配係数（Log Pow）	1(at20℃(at pH7))

残留性・分解性

製品	
残留性・分解性	；BOD_5＝300mg/L(1g/L soin.),COD_{Mn}＝390mg/L (1g／L soin.)

生体蓄積性

製品	
生体蓄積性	データなし
ジエチレングリコールモノブチルエーテル(112-34-5)	
ｎ-オクタノール/水分配係数（Log Pow）	1(at20℃(at pH7))

土壌中の移動性

製品	
土壌中の移動性	データなし
ジエチレングリコールモノブチルエーテル(112-34-5)	
ｎ-オクタノール/水分配係数（Log Pow）	1(at20℃(at pH7))

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性　：分類できない

その他の有害な影響　：追加情報なし

１３．廃棄上の注意事項

廃棄方法　：内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

残余廃棄物　：許可を受けた人／許可を受けた廃棄物処理業者、またはその他の適切な廃棄物処理技術を用いて処理する。

汚染容器及び包装　：容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。
許可を受けた人／許可を受けた廃棄物処理業者、またはその他の適切な廃棄物処理技術を用いて処理する。

１４．輸送上の注意

国連勧告(ＵＮ ＲＴＤＧ)	海上輸送(ＩＭＤＧ)	航空輸送(ＩＡＴＡ)
国連番号		
規制されていない	規制されていない	規制されていない
国連正式品名		
規制されていない	規制されていない	規制されていない
輸送危険物分類		
規制されていない	規制されていない	規制されていない
容器等級		
規制されていない	規制されていない	規制されていない
環境有害性		
規制されていない	規制されていない	規制されていない

海洋汚染物質　：非該当

国内規制

陸上規制　：消防法、労働安全衛生法、毒劇法等に定められている運送方法に従うこと。

緊急時応急措置指針(ERG)番号　：１７１

その他の情報　：補足情報なし

１５．適用法令

国内法令

化審法　：優先評価化学物質(法第 2 条第 5 項)

労働安全衛生法　：名称等を通知すべき危険物及び有害物(法 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号別表第 9)

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号別表第 9)
ジエチレングリコールモノブチルエーテル(政令番号：224 の 3)30～40%

毒物及び劇物取締法　：非該当
消防法分類　：非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)(令和 5 年 4 月改正)　：【改正後 令和 5 年 4 月 1 日以降】
第 1 種指定化学物質(法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1)
ジエチレングリコールモノブチルエーテル(管理番号：627) 30～40%
船舶安全法　：非該当
航空法　：非該当
海洋汚染防止法　：ばら積み運送：未査定物質　個別運送；該当しない

政府インベントリリスト

アメリカ(TSCA)　：収載なし
カナダ(DSL)　：収載なし
オーストラリア(AICS)　：収載なし
韓国(KECL)　：収載なし
中国(IECSC)　：収載なし
ニュージーランド(NZIoC)　：収載なし
フィリピン(PICCS)　：収載なし
台湾(TCSI)　：収載なし

輸出統計品目(HS コード)　：3402.90-000
HS コードについて　：参考情報として HS コードを記載していますが、解釈・用途等により他コードを適用可能な場合があります。輸出の際には、輸出者の責任において選択した上で税関の指示に従い適切に対応して下さい。

１６．その他

連絡先　：日新理化産業株式会社
電話番号：0495-72-5551　Fax 番号：0495-72-4994
E-mail：nrs-kdm@taupe.plala.or.jp

参考文献　：GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)(JIS Z7253:2019)。
GHS に基づく化学品の分類方法(JIS Z7252:2019)。
事業者向け GHS 分類ガイダンス(経済産業省)。
日本化学工業協会　GHS 対応ガイドライン。
製品評価技術基盤機構(NITE)GHS 分類データ。
界面活性剤の GHS 対応 SDS 作成ガイド(日本界面活性剤工業会)

その他の情報　：EU REACH 登録については弊社担当者にお問合せ願います。
韓国に輸入する際は化学物質の登録及び評価に関する法律(K-REACH)に基づき登録が必要になる場合があります。
詳しくは弊社担当者にお問合せ願います。
台湾インベントリー(TCSI)登録あるいは準拠物質を台湾に輸入する際に 100 kg/年の量を超える場合(混合物の場合は各成分毎の量)は輸入者による第 1 段階登録が必要です。

免責事項　当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保障をするものではありません。製品の取り扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理が居であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取り扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・関節に問わず一切負いません。当該安全データシートは本製品にのみ使用するべきであり、本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがあります。

発行変更履歴
作成日　2007 年 03 月
改訂 1　～　改訂 6　省略
改訂 7　2017 年 07 月
改訂 8　2023 年 08 月

以上